



1. アラダア山地のオフィオライト層を覆う古生代と中生代のカーボネイトのナップ (本文参照)。

2. (下) カパドキア地方にひろがる中新・鮮新世の軽石凝灰岩(白色部)と溶結凝灰岩(黒色部)、後者が茸の傘状に残り奇景を呈する。

3. (右下)ギョレメの遺跡。紀元4世紀頃、エジプトから難を逃れたキリスト教徒がこの軽石凝灰岩中に数万人を収容する地下都市を建設した。





4. キュレ鉱山露天掘。ローマ時代から銅鉱山として稼行され、オスマン・トルコ時代を経て今日でも盛んに採掘が続けられている（本文参照）。



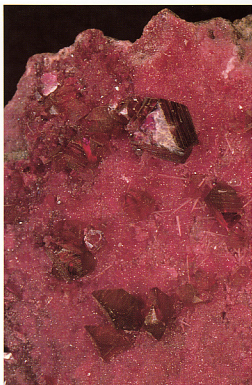
5. トルコ東部のエルガニ鉱山アナヤタク鉱床の含銅硫化鉄鉱。黄銅鉱の緻密な塊状集合がオフィオライト中に胚胎する。この鉱山は紀元前2,000年以上前のアッシリア時代から採掘されているが、最近では鉱量が減少し採掘が行われている。



6. グレマン鉱山のクロム鉱床の露頭。グナイト中に黒色のクロム鉄鉱が層状又は不規則塊状に濃集する。トルコの代表的なクロム鉱山で、エルガニ鉱山の北東約20 kmに位置する。

トルコの代表的鉱物

M.T.A.附属博物館所蔵



7. 堇泥石 (Kaemmererite), コプダー鉱山のクロム鉄鉱の割目に生成。コレクター垂涎の標本。(×2)



8. コールマン石 (Colemanite), トルコ有数の硼酸塩鉱床であるブルサ、ケステレク鉱山産。(×1/2)



9. 偽白榴石 (Pseudoleucite), 閃長岩の斑晶として産出し、最大径15 cmに達するものがある。アンカラ、ケスキン産。(×1)



10. ダイアスポア (Diaspore), ムーラ、ミラス鉱山のエメリー中の脈に産する。(×1)



11. エフェス(エフェソス)はヘレニズム時代からローマ時代に栄えた港湾都市であり、円型劇場から白く延びる大理石のアルカディア通りの先端はかつては港であった。しかし、その後メンデレス川*の運ぶ土砂により海は数kmも後退し、都市は次第に衰退していった。(*メアンダー川ともいい、蛇行すなわちメアンダーの語源となった)

12. トルコは建築用石材として大理石をヨーロッパ各国に輸出しているが、縞模様のは花瓶や皿等の加工品としても利用され、土産物屋の店頭を飾っている。

13. アンカラの西方250kmのキュタヒヤは良質の陶土を産することから古くから焼物の町として栄えた。美しいタイルで飾られた噴水が町のシンボルとなっている。

